

第19回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム社会科学賞～

<順不同、敬称略>

※社会部門は、当論文賞受賞時の所属を記載しております。

[入賞]

「ネット・ポリティックス –9.11以降の世界の情報戦略–」

(岩波書店 2003年6月刊)

土屋 大洋 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター
助教授・主任研究員

9.11以降大きく揺れ動く世界の情報戦略の中で、インターネットのガバナンスをめぐる政治力学を「インテリジェンス・コミュニティ」と「インターネット・コミュニティ」とを対比して詳述している点が評価された。豊富な事例をもとに、読み易い文体で論じた好著である。

「記憶のゆくたて –デジタル・アーカイブの文化経済–」

(東京大学出版会 2003年2月刊)

武邑 光裕 東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 助教授

アーカイブの歴史を遡りつつ、現代のデジタル・アーカイブの文化経済について考察したユニークな点が評価された。古今東西の事象に言及し、「ゆくたて」という古語に由来する言葉を使うなど、豊富な知識に支えられた好著である。

[奨励賞]

「公共 iDC と e-社会 –電子政府・電子自治体・電子社会の基本理念–」

(工学図書 2003年1月刊)

大橋 正和 中央大学 大学院 総合政策科 教授

公共 iDC から説き起こし、国をあげて推進中の電子政府・電子自治体などについて論じている。主張が一貫しており、説得的である。今後可能となるサービスについて具体例が紹介されている点も興味深い。

「Computer-Mediated Communication の対決性に関する社会心理学的研究」

(学位論文)

佐々木 美加 常磐大学 人間科学部 専任講師

CMC という一種のメディアで行われる相互作用が対決的になる要因、どう改良すれば協調的になるのかを検討することを目的として、先行研究を踏まえて実験研究によって検討した力作である。